

かまにし

第16号

発行 ながまち大田蒲田西部地区推進委員会
編集 地域情報紙編集委員会

ながまちの顔

ロシアン・ジプシー占い リュウ・ミツコさん

「長い間ロシアン・ジプシー占いを続けてきて、多くの人々に感謝されたので、これからの残りの時間は、生きるために必要な知識と知恵を体力がある限り提供したい。」

そう語ってくれたのは、白系ロシア人を彷彿させ、染み一つない抜けるような肌の老婦人、リュウ・ミツコ（本名・池田於満八十八歳）さんだ。現在、多摩川二丁目トミタワに在住している。

リュウさんは中国北京南東部・青島（チンタオ）で1917年に生まれる。両親の仕事の関係で20歳半ばまで、ハルビンに住んでいた。この時、ロシア革命でモスクワを追われ、ハルビンに亡命していたロシア貴族の、アレキサンドラ・イワノフ・ウエラ伯爵未亡人と運命的な出会いをする。革命前の帝政ロシア時代、宮廷で貴族たちの間で盛んだったジプシー占いを生活の糧にしていた。親身になって相談に応じてくれ、可愛がられ、

懇意になる。父の仕事の都合で移転するとき、未亡人は名残を惜しみ、ロシアン・ジプシー占いを伝授した。伝授は筆録を禁じられ、口述で教えられた。記録は皆無で、占いの方法が複雑雑多である理由で、現在世界でリュウさん一人になる。弟子はいない。

道具はトランプである。西洋トランプと違い2から5までのカードはなし。36枚だけを使う。複雑多岐な操作をし、クワイアントの過去や現状を聞き取り、仕事運・金運・家庭運と健康運、性格等を網羅的に鑑定する。

実はリュウさんと旧帝政ロシアとは、因縁めいたものがある。革命の年に生を受け、伯爵未亡人との出会いがあり、後に友人の欧州旅行の土産が、革命でヨーロッパに亡命した旧ロシア貴族が手放したロシアントランプであった。そして巡り巡ってリュウさんの手に入った。

当初は趣味として自身を占つ

ていたが、戦後内地に引き揚げ、占いの大御所、宇佐美先生に出会い人生の転機を迎える。先生の紹介でプロとしてマスコミにデビューする。

華麗だった。当時の占いブームに乗り、10チャンネルや8チャンネルの小川宏シヨールでレギュラーを持ち、坂本九・立川談誌・伊東四郎を占い、好評を博す。また、雑誌「女性セブン」「マドモアゼル」「女学生の友」等数社に連載、取材に追われ、三船敏郎・吉永小百合等芸能界はもとより各界のセレブ（有名人）占いには、枚挙にいとまがない。

「60数年続いたロシアン占いは、私の人生の全てでした。ただこの伝統と格式ある占いが私だけで世界から消えてしまうのは、遺憾。」

その言葉には、世界に唯一人のロシアン占い師としての自負が垣間見られた。

（取材 滝口、橋本委員）



踊る阿呆

大田区職員の阿波踊りグループ

へ踊る阿呆に、見る阿呆
同じ阿呆なら、踊らにや
ソン、ソン

さる四月十七日、蒲田西口駅前で開催された「2005・蒲田行進曲フェスタ・春」のアーケード街パレードの中で、大観衆に圧倒的な感動を与えたのは、「くすのき連」の阿波踊りでした。エネルギーに、かつ優雅に、洗練された踊りと、お囃子連中が一体となり、観る者、聞く者がまさに圧倒され、驚きと興奮の波に包まれました。



「くすのき連」の誕生

グループの結成は平成二年、当時産業経済部長に就任したばかりの高野六雄氏が、区内で二十年近くも続く「糀谷商店街阿波踊り大会」の実行委員長から「区の職員は六千人もいるのに誰も参加してくれない」とこぼされたのが、きっかけでした。

西野区長の強い後押しもあり、「よし、受けて立とう」。産業経済部内の男性と、職員サークル「民踊部」の女性から希望を募り、とにかく「くすのき連」をなんとか立ち上げることができました。

早速に糀谷商店街の有志の方々による猛特訓が始まりました。当初は糀谷商店街の阿波踊り大会だけだった活動の場は、次第にほかの商店街の夏祭りや特別養護老人ホーム、障害者施設などへ拡大しています。

「くすのき連」の現在

結成より今年で十六年目、現在のメンバー数は約四十名、二代目連長は赤阪英夫氏（交通事業本部長）。区内で行われるさまざまなイベントを中心に出演依頼があり、地域の方々と一緒に地元を盛り上げていこうと、年間約六十回以上出演しています。区内のほか、中央区、板橋区、豊島区、川崎市など近隣自治体で行われる阿波踊り大会にも参加し、自治体間の友好を深めています。

また本場徳島のさまざまな有名人の踊りも研究し、阿波踊りの伝統を大切にするとともに、連独自の演出も多数考案し、毎年新しい演出も工夫し、切れのある男の激しい暴れ踊りと、テンポよくかつ優雅な女踊りで見せ場をつくっています。

なお、高円寺阿波踊り大会では、平成十三年に都知事賞、平成十五年には都議会議長賞を受賞しています。

ハードトレニーニング

躍動感あふれる踊りを続けるためには、体力が必要です。そ

のための練習は、ほぼ年間を通じて「五・一〇日（ゴトウビ）」に行っています。土日にあたるときは前後の平日に振り替えて行います。

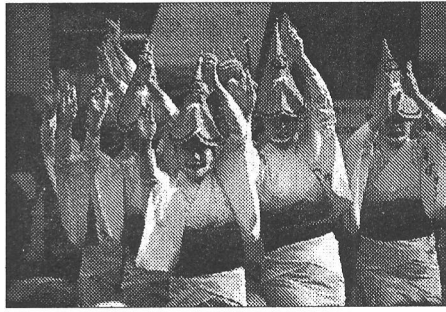
場所は大田北地域行政センターの地下駐車場を使用しています。コンクリートむき出しの駐車場は、夏は蒸し風呂のように暑く、冬は底冷えのする悪環境です。シャッターが閉まり、地下でするので、お囃子の大きな音を出しても、ご近所の迷惑にはなりません。通常は午後六時三十分頃からスタートし、二時間程度の練習です。



「手は肩より下げない」「同じ側の手足を出す」「前に出す一歩目には絶対に体重を乗せな

い」。始め、男踊りは提灯を持たずに、徹底した基本練習から入ります。

練習を多いときは週二回行います。これが続けていかないと、イザ本番の高円寺や糞谷などの数百メートルのストリートを繰り返し踊ることは出来ません。多くの連員が毎回、全身汗にまみれて真剣に取り組んでいます。もともと練習後の冷たい一杯がなんとも言えない格別な味だという話も聞かえてきました。



蒲田西特別出張所

蒲田西特別出張所には、「くすのき連」に所属する二名の職

員が区民のためにサービス事務を行っていています。野瀬 實氏と猫塚 順子さんです。

野瀬 實氏は出張所に今期で六年目、担当は窓口業務です。くすのき連に参加して十四年、もっぱら大太鼓を受け持ち、連の中でメンバーの中堅とし存在感を示しています。

猫塚 順子さんは出張所に今期で三年目、同じく窓口業務を担当しています。くすのき連在籍十年、女踊りの華麗な姿は人気バツグン、女性チームのリーダー的存在です。

◎野瀬 實氏談

平成三年に入連。当時大変お世話になった係長の依頼で始めました。浴衣や帯の締め方も判らず、「なぜこんなことをしているのか」と思ったことが何回もありました。

思えば当初は踊りで、途中からお囃子に転向しました。踊りにしろお囃子にしろ、その奥の深さに気が付いたときには、阿波踊りの虜になっていました。

忘れられない思い出は、娘の結婚披露宴に仲間のくすのき連が出演してくれた時です。感動し思わず目頭が熱くなってしま

いました。連の第一号披露宴パーティーでした。

連員一同、これからも区民の皆様喜んでもらえる、くすのき連でありたいと思っています。



◎猫塚 順子さん談

当初は「阿波踊りなんて・・・」と甘く見ていましたが、単純な二拍子が踊れず、悔しかったのを覚えていきます。いまだに踊りに納得がいかず悔しい気持ちは変わりません。ただ、より良い踊りをしたいため、本場に行つては、「何かを掴んでやろう」という気持ちで以前よりずっと強くなりました。辛いことといえ、常につま先立って踊るため、全体重が下駄の鼻緒に集中し、つま先や、足の甲に水ぶくれが出来たり、足の爪が死んで

しまったりと、痛い思いをしています。しかし、お客さんから「良かったよ」と声が掛かったり、喜んでくれている事が伝わってきた時には、嬉しいとともに、大変励みになり、続けられる限り踊っていきたい、退職まで頑張ろうという気になります。

赤阪連長挨拶

連員はみな、昼間は真面目に働く地方公務員ですが、ひとたびお囃子が鳴り出すと、自然に身体が動き出すという「踊る阿呆」ばかりです。

本紙をご覧になり、私たちの「くすのき連」をご理解いただき、よろしければ、ぜひ実際に私たちの躍動感あふれる踊りを生でご覧いただき、楽しんでいただければ幸いです。

これからも、さらに踊りやお囃子の上達を目指し精一杯頑張っていくつもりです。よろしく応援お願い申し上げます。

なお、蒲田西特別出張所管内では、八月七日に、矢口ノ渡商店会主催の「渡し盆踊り」に参加を予定しております。

(取材 石渡、柏村、都築委員)

楽しく、住みよい

多摩川二丁目町会

坂本 行雄

当町会は、昭和28年に創立されました。現在2775世帯、人口6045名、蒲田西地区一、二のマンモス町会です。一級河川多摩川という自然に恵まれた環境のもとにあり、多摩川沿いには高層マンションが建ち並び、現在も住宅供給公社及び老人ホーム等が建設中です。

学校区も小学校は、矢口小学校と道塚小学校、中学校は安方中学校と御園中学校になっており残念なことに町内にはありません。町内には、矢口消防署があり、とても心強く思っています。町会は行政と地域のパイプ役をしております。

当町会行事としては、毎月15日に執行役員会を開き、そこで決まった行事等を20日定例役員会で地区部長、班長さんにお知らせして色々と協力していただいております。当町会は26部あり部長、班長数は126名です。

6月には毎年多摩川河川敷の清掃があります。隣接町会の安

方南町会、道塚自治会、トミン多摩川二丁目自治会の協力をいただき一般会員さんも大ぜい参加して盛大に清掃が行われます。7月には夏休みラジオ体操会が諏訪神社境内で行われます。早朝より子供からお年寄りまで皆元気に集合します。

8月には、諏訪神社祭礼に協力します。昨年は、婦人文化部が毎月習っているフラダンスを皆様に披露させていただきました。

9月には、敬老のお祝い品を75歳以上372名の方にお配りします。

10月には、毎年町会独自の防災訓練をします。矢口消防署の協力により色々な訓練を行い、非常食としてすいとん等を大勢の参加者と試食します。500人分くらい作りますのでとてもおいしいと評判です。

12月には歳末パトロールをします。1月には、新年顔合わせ会、2月には、餅つき大会と切れ目のない行事で町内の人達との結びつきを大切にしています。

当町会は、思いやりと楽しく住み心地のよい町作りに役員一同努力しています。

事務局からのお知らせ

4月24日に大田区子どもガーデンパーティーが行われました。当日は晴天に恵まれ、大田区内の8会場とも昨年を上回る人数となりました。

蒲田西地区管内では相生小学校で開催されましたが、子ども・大人・協力者総勢で4100人の参加者がありました。

また今年には国勢調査が行われます。皆様のご協力をお願いいたします。

今号から『かまにし17』の編集担当が人事異動にともない、鎌田から佐藤に変わりました。今後ともよろしく願っています。

編集後記

今回の「わがまちの顔」ではロシアン・ジプシー占いのリユウ・ミツコさんをご紹介しました。お話を伺ううちに、占いとは神秘的な力と、統計学の両方の側面があるのだなど、感心させられました。これからもロシアン・ジプシー占いを絶やすことなく、頑張ってください。

特集で取り上げたたくすのき連は数ある職員の団体の中でも、有名な団体です。連員はみな、お堅い職業のやわらかい頭の人たちで、日夜、業務と踊りを両立させ、区民に喜んでもらうと励んでいるそうです。お祭り等で見かけたときは、ぜひ、応援してあげてください。

町会紹介は多摩川二丁目町会でした。町内の結びつきを大事にするため、さまざまな行事を行われている努力には、頭が下がる思いがしました。

情報紙に対する「意見・感想」などを事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所

大田区西蒲田七十一・七二・七三(三七三三)四七八五

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29,479人
	女	27,192人
	計	56,671人
世帯	29,451世帯	

平成17年5月1日現在